

PROGRAM NOTE

1993

近藤譲：彼此（おちこち）

チェロとピアノのための

Near and Far

for Cello and Piano

この曲でのチェロは、A-C#-G-B に調弦され、終始、ハーモニックス奏法で演奏する。そして、この特殊な調弦のお蔭で可能になる自然ハーモニックスによる7度や9度音程の重音が、しばしば用いられている。ピアノが作り出す半音階的なテクスチャーの上を漂うこの抒情的なチェロは、耳を引くに違いないが、しかし、少なくとも作曲上の観点からは、このチェロ・パートは、一種のオブリガートであって、音楽の主要な持続はピアノ・パートから齎される。

この作品は、スリランカ出身のチェロ奏者ロハン・デ・サラム（アルディッティ弦楽四重奏団の一員としてよく名を知られている）のために作曲、彼とその弟のピアノ奏者ドゥルヴィ・デ・サラムによって、1993年に東京で初演された。

近藤譲

初演：1993年7月 「東京の夏」音楽祭（東京）

初演者：Rohan de Saram(チェロ) Durvi de Saram(ピアノ)

委嘱：Rohan de Saram

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-45

演奏時間：11分